



昭和医科大学病院リハビリテーション科

笠井史人 先生

昭和医科大学病院リハビリテーション科教授・本院診療科長
昭和医科大学医学部リハビリテーション医学講座教授

教授・指導医からの直接指導で「本物の学び」を

昭和医科大学医学部リハビリテーション医学講座では、「人の生活（暮らし）を見据えた医療」を理念に、臨床・教育・研究を三本柱とする体系的な研修プログラムを提供しています。中でも昭和医科大学病院リハビリテーション科は、特定機能病院としての高度な医療環境の中で、急性期医療におけるリハビリテーション医療を実践的に学べる中核的な施設です。

昭和医科大学病院リハビリテーション科の研修の大きな魅力は、教授や指導医との距離が非常に近く、日常的に質の高い指導を受けられる点です。特に笠井史人教授によるボツリヌス外来での指導は、注射の手技にとどまらず、超音波画像の読み取り方や、筋の解剖学的理解、臨床への応用に至るまで非常に丁寧かつ実践的で、研修医にとって大きな学びとなります。笠井先生は「患者さんのご協力の下で実践的な経験をたくさん積めるのは、当院での研修のメリットだと考えています。こうした場面では、ただ手技を覚えるだけではなく、臨床判断力や診断的視点の育成にもつながる『深い学び』や『患者さんとのきめ細やかなコミュニケーション』を体験することができます。まさに、自発的な知識の吸収と、現場での実践が融合する環境です。」と説明してくださいました。

チーム医療の中心で学べる「ベッドサイド教育」

病棟回診では、専攻医が指導医と一緒にベッドサイドに立ち、時には専攻医がリーダーとなって患者さんの状態を把握しながら治療方針を共に検討します。また、摂食嚥下障害の評価や対応においては、



笠井史人 先生

昭和医科大学病院 リハビリテーション科

病床数：815床、スタッフ構成：医師6名（専攻医を含む）、理学療法士24名、作業療法士12名、言語聴覚士4名

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、看護師などとの多職種チームでの診療が行われており、現場でチーム医療の真髄を肌で感じながら学ぶことができます。笠井先生は、「リハビリテーション科医がチームの中で果たす調整役・リーダーとしての役割を、日々の診療を通じて実感できることも、当科ならではの特色です。」とチーム医療を現場で学ぶ重要性を説明されました。

多彩な疾患、幅広い技術が習得可能

リハビリテーション科の主な対象疾患は、脳卒中、脊髄損傷、整形外科疾患、神経筋疾患、小児疾患、がん、義肢適合、摂食嚥下障害など多岐にわたります。また、VF/VE、神経ブロック、装具処方、



病棟で摂食嚥下障害回診を行う様子



ボツリヌス外来で指導する笠井教授



多職種で病棟回診をする様子



左から小島先生、笠井教授、西田先生

機能的電気刺激療法、薬物療法（痙縮・疼痛・排尿排便障害など）といった専門の手技や検査にも、日常診療の中で触れることができます。さらに1週間のスケジュールの中にも、病棟回診、入院依頼患者の診察、外来、摂食嚥下回診、脳神経外科カンファレンス、救急カンファレンス、ボツリヌス外来など、幅広く研修できるプログラムになっており、専門性の高い分野での外来・病棟業務がバランスよく配置され、効率的な学びが実現されています。

「年間を通じてステップアップ・スキルアップができ、なおかつ人脈も広がるように、6月・9月・10月には日本リハビリテーション医学会学術集会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会ほか、学会発表や症例検討も積極的に支援し、プレゼンテーションスキルや研究的視点も自然に育まれるよう配慮しています。」と笠井先生は説明されま

した。

関連施設との連携で視野を広げる

さらに本院での研修に加え、希望に応じて藤が丘リハビリテーション病院、江東豊洲病院、横浜市北部病院など、回復期・生活期に強い施設での研修も可能だそうで、「すべての臨床ステージを横断的に学べる点は、昭和医科大学ならではの強みです。各施設での研修は、実践力・判断力・チーム連携力を三位一体で養い、リハビリテーション科専門医としての確かな基礎を築くことができます。専門性の高い医療の中で、思考力と人間力を磨きたいと考える若手医師にとって、理想的な成長の場がここにあります。」と笠井先生は、昭和医科大学病院リハビリテーション科での研修の魅力について最後にまとめてくださいました。（文責 広報委員会）